

総合の時間

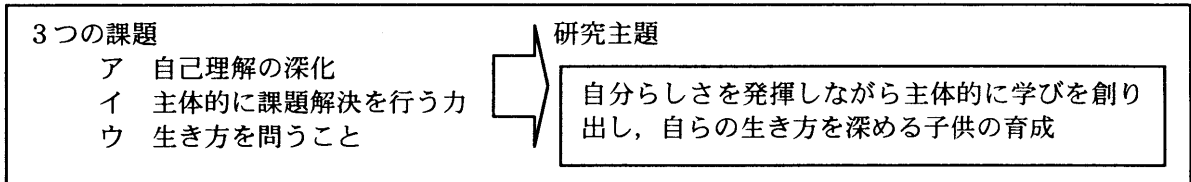
自分らしさを発揮しながら主体的に学びを創り出し、

自らの生き方を深める子供の育成

～学びを意識しながら継続的に活動に取り組み、自らの生き方をとらえることができる授業の展開～

1 研究の経緯

昨年度、本校の研究主題である「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」を受けて、総合部会では、次の3つの課題から研究主題を設定した。



そして、研究主題に迫るために、次の3つの方向から実践を重ねてきた。

- 自分らしさをつかむ前提となる自己理解を子供にどうもたらすかということ
- 自己理解があって初めて自分だけの学びを創りだすことができると考えた時、自己理解にもとづいた主体的な課題設定や追究過程をどう構想するかということ
- 構想から追究を行う過程で子供にどのように自己成長感や自信を実感させ、自分の得意な力や興味あることを伸ばしていくかということ

その結果、次のような成果が得られた。

- 自主学习帳や日頃の観察を通して子供の「よさ」を肯定的に伝えたり、総合の時間の中で自分の「よさ」を生かせるよう助言したりすることが、子供に自己理解をうながす上で、有効であることが分かった。
- 子供が主体的に追究活動を進めるために、教師と子供で課題を決めていく授業形態を取り入れたり、教科で学んだ力を使って考えていく場面を設定したりすることが有効であることが分かった。課題によっては主体的に取り組む意欲を継続していくことが難しく、課題の持たせ方や学習の手ごたえの感じさせ方について改善が求められることも明らかになった。
- 子供へ自己成長感や自信をもたらす上で、友達やゲストティーチャーと交流したり新しいことに挑戦したりする活動を取り入れることが重要であることがわかった。さらに、自分の得意な力を伸ばしていくために、人とのかかわり方について改善が求められることが明らかになった。

また、「総合の時間の評価の観点」として「自分の生き方」、「学び方」、「総合的な見方・考え方」の3つを設定して授業を展開していった。評価の観点を明らかにしていくことで、本校で育てたい子供像を意識して授業を計画するとともに、子供への支援の方向が明らかになるため、より深まりのある活動となった。

2 研究の方向

昨年度の研究、全体提案を受けて、今年度は主体的な子供の活動を持続させていくためにはどのような支援をしていったらいいのか、自分らしさを強く感じていくためにはどのような活動が効果的か、という2点から主題に迫りたいと考え次の仮説を立てた。

- 子供自身が学びを感じたり自分の力を意識して使ったりすることで、主体的に活動に取り組む意欲を高め、さらに活動を持続していくことができるのではないか。
- かかわる活動を通して、様々な考えにふれたり以前の自分と比べる活動を工夫したりすることで、自分らしさを強く感じ、自らの生き方をとらえることができるのではないか。

これらの仮説を検証するために、本年度の副主題を「学びを意識しながら継続的に活動に取り組み、自らの生き方をとらえることのできる授業の展開」とし、次の2点から研究実践していくことにした。

- (1) 子供が主体的な活動を持続していくための支援の方法
- (2) 自分らしさに自信を持ち、生き方をとらえていく活動の工夫

3 研究の内容

(1) 子供が主体的な活動を持続していくための支援の方法

ア 学びを実感し、次の活動意欲を生み出す支援の工夫

主体的な活動をしている時、子供は学びを感じやすい。総合の時間での学びを感じることは「見方・考え方」、「方法」を身に付け「自己成長感」を味わうなど、これまで自分で感じられなかったものを活動の中で取り入れたと実感することとした。昨年までの研究の中でも主体的な活動を生み出すために、他教科との関連を意識付けるなど様々な支援の仕方を考えてきた。本年度は子供が主体的に活動を始めた時、その活動が継続していくための支援を次のように考えた。

- 単元でのねらいを子供に伝えていくこと

教師が単元を通して育てたい力を、子供にわかる言葉で伝えていくことにした。特に、子供が課題を作る時や活動中の支援を通して、子供に分かりやすい言葉で伝えていくことで子供が活動の方向を見つけ、さらに意欲的に活動に取り組めるようにした。

- 子供に学びを実感させていくこと

単元の中の様々な場面で、活動を通して自分が考えたことや、新たに分かったこと、活動に生かしたことなど、自分の学びを子供自身が意識できる場を設定していくこととした。また、教師が、「学びを感じる」と実感している子供を意図的に賞賛し紹介していくことで、より自分自身の学びについての気づきを促し、次の活動意欲へつながるようにした。

イ 自分の力を的確にとらえ、見通しを持って活動に取り組める支援の工夫

主体的な活動を持続していくためには、子供が活動の見通しをもって取り組むことが必要である。子供が見通しを持つためには、まず、今の自分の力を的確にとらえ、それをもとに課題に対してどのように取り組んでいくのかを考えることが大切になってくる。

そこで、今の自分の力を的確にとらえるために自己評価力を育てていくことや、とらえた力をどのように使えばよいかを常に意識しながら活動を考えていくことができるように次のような支援を考えた。

- 自己評価力を育てる活動計画表の工夫

これまで、活動計画表というのは、めあてを立てて活動の様子を確認するなどの行動面のふりかえりを中心とした形式のものが多かった。そこで、ここでは、子供の自己評価力が育つような活動計画表を工夫していこうと考えた。計画表の書き方としては、本時の活動をふりかえる際に、自分の活動の成果を「できたこと、できなかったこと」「めあての達成度」などの観点でとらえ、これをもとにして次の時間の見通しを持ち、新たなめあてを持てるようにした。

○ とらえた自分の力を、次の単元で生かしていく活動の工夫

前述のような活動計画表の工夫で自分の力を的確にとらえていくが、「出会い」、「追究」、「自己表出」、「学び合い」、「ふりかえり」という総合の時間の活動過程において、それぞれ自分に身に付く力は様々なものがある。

例えば、ある単元の中の「追究」の過程で、「デジカメを使って分かりやすくまとめることができた」「たくさんの資料を比べ整理してまとめることができた」といった力が身に付いたと感じた時に、そのまとめる力を次の単元の「追究」にも生かしていくことで、より深まりのある活動が期待できるのではないかと考えた。

そこで、本時のめあてを立てる際に、前単元の活動計画表をふりかえり、自分に身に付いた力を活用していけるかどうか確認していく場を設定した。このような活動を繰り返すことで、自分の力を的確にとらえ、これを発揮していけるようにした。

(2) 自分らしさに自信を持ち、生き方をとらえていく活動の工夫

本校の総合の時間では、「自分らしさ」を「健全な自己像」という意味でとらえている。生き方をとらえるためにはまず、自分らしさを考え自信を持つ場を単元の中に随時、設定していくことが大切であると考えた。そして、総合の時間を通して感じられた自分のよさを生活や社会の中で生かし、自分の生き方をとらえていけるような工夫をすることにした。

ア 様々な人とかかわる活動の工夫

友達との違いを感じたり、じっくりふりかえったりする中から、自分らしさを意識していく場面は多い。これまでも、中間発表会やふりかえりという場を利用したり、「自分について」考える単元を設定したりするなど、様々な方法で子供が自分らしさを意識するための方策を考えてきた。今年度も、それらの活動を通して自分らしさを意識していくことを中心とし、さらに、「人とかかわる」という観点から、発表会やふりかえりの場を工夫していくことにした。

例えば、中間発表会では、単に情報の交換会をするのではなく、テーマを決めて自分の考えを述べることを、積極的に友達と自分の考えを比べることを意図的に取り入れていく。また自分の身近なものに対する思いとして、自分とは立場の違う人の話を聞く活動を取り入れ、その話から感じたことをもとに自分らしさを意識できるようにしていくようにした。

さらに、ふりかえりの場面ではこれまで一人でじっくりとふりかえることが多かったが、友達と語り合いながらふりかえる活動を増やしていくことで、自分らしさを意識できるようにした。

- テーマに関して話し合う中で、自分の見方や考え方を友達と比べる活動の例として
 - ・ 5年生「日光調査隊」の中の子供会議のテーマとして、「シカの食害」を取り上げ話し合ったり日光の自然に関する専門家の話を聞いたりする。 など
- 自分とは立場の違う人の話を聞き、話から感じたことをもとに自分らしさを意識できるようにする活動の例として
 - ・ 4年生「学校大好き」で卒業生や学校とかかわりのある人の話を聞く際に、情報としてだけでなく、学校を離れた人の視点からの学校への思いと、自分で感じている学校への思いを比べるような観点を設けていく。
 - ・ 6年生「留学生とふれあおう」で、留学生が困っていることや日本に来て感動したことなどの話を聞き、自分で感じている日本や外国への思いと比べていく。 など

イ 以前の自分の見方、考え方と比べる活動の工夫

活動をしていく中で、対象への子供の見方や考え方は変わっていく。これは、最初に持っていた自分らしい見方や考え方が活動を通して変容してきたことでもある。以前の自分と今

の自分の見方、考え方がどのように変わってきたのかを、自分の中で意識していくことができるように次のような手立てを考えた。

○ 単元の最初、中、最後での自分の考えを書く活動の工夫

子供の課題に対する「見方・考え方」は、活動をする中で徐々に深くなっていくと考えられる。そこで、自分の追究テーマが決まり、初めて課題を意識した時、中間発表会などで友達の考えを聞いた時、さらに単元の終末のふりかえりの時に「テーマ・課題に対する今の自分の気持ち・見方」を子供の発達段階や単元の内容に合わせて作文やふき出しなどの形で累積していくようにした。さらに、単元を通して自分の見方・考え方がどのように変わってきたのか、課題に対するこだわり度などの観点を決めて見直していけるようにした。このように、単元を通して変わっていった思いや深まってきた思いを客観的に見ていくことで、自分らしさを意識させていくようにした。

なお、活動の中でふれ合うゲストティーチャー、保護者、教師など自分の活動に多くかかわる人から見た自分の姿を伝えてもらうようにした。特に自分に最も身近である保護者には、単元の始まる前にその内容を伝えること、単元を通じて活動の様子を伝えることで総合の時間の活動への理解を促すようにした。

ウ 自分らしさを生き方へつなげていく活動の工夫

子供が生き方を考える場として、年間活動計画の中に「自分について」考える単元を設定し、生き方とは何かを話し合う中で、自分の生き方について深く考える活動を取り入れてきた。

本年度は、追究の中で感じられた自分らしさを自らの生き方へとつなげていく具体的な活動を工夫した。それは、活動の中で自信を持ったことやこうしたいと強く思ったことを広く公開したり、実際に生活や社会の中で実践したりすることである。自分の思いを公開することはそれだけ自分の発言に責任を持つことであり、実践に移すことは自分の力を試していく場である。これらの活動を、4年間を通して取り入れていくことで、より自らの生き方へと近付いていけるのではないかと考えた。

○ こうしたいと強く思ったことを公開する例として

- ・ 学習を通して感じたことをまとめていくだけでなく、「今、自分にできることは何か」、「今はできないが、何年後にできることは何か」など観点を決めて、自分の考えのまとめをして発表する。
- ・ 校内のコンピュータのネットワーク上で、単元を通じて考えたことを公開していく。

○ 生活や社会の中で実践する例として

- ・ 6年生「健康アップ作戦」で追究したことを、家庭の中で実践していく計画を立てて取り組む。
- ・ 5年生「日光調査隊」の単元後半の活動で、自分の考えを専門家に聞きに行ったり実際の場で確かめたりする。

4 成果と課題

本年度は、研究テーマ「自分らしさを発揮しながら主体的に学びを創り出し、自らの生き方を深める子供の育成」の2年目として、子供が主体的な活動を持続していくための支援の方法、自分らしさに自信を持ち生き方をとらえていく活動の工夫の2点を研究してきた。その結果、自分の力をとらえ見通しを持って活動に取り組む姿、様々な人の考えと自分の考えを比べる中で自分らしさを強く感じている姿が見られた。

今後は、自らの生き方をさらに強く意識し、深めていけるような活動や場の工夫について研究を進めていきたい。